

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年  
4月28日  
第151号



## ヒトツバタゴ (モクセイ科)

温室の東側に、目立って白い花が咲いている木があります。中国、台湾、朝鮮半島と、対馬、東海地方に隔離分布する落葉高木です。愛知県では絶滅危惧1類に規定されています。別名としてナンジャモンジャノキと呼ばれます。日本では根の皮を民間薬として強壮、健胃、緩下を目的に使用されていた、という記述をweb上に見つけましたが、ウラは取れませんでした。中国では芽および葉が流蘇樹(リュウソジュ)という名の中薬となり、化痰止咳、祛風除湿、活血化癥を目的に、感冒、関節痛、筋肉痛、月経痛、外傷後のうっ血、腫痛などに利用するそうです。また、果実には油分が多く含まれるので、搾油を食用とするそうです。同属植物のアメリカヒトツバタゴは、アメリカ先住民の間で、根皮を催眠、利尿、解熱、強壮を目的に使用していたそうで、市販されている樹皮のチンキ剤は、肝肥大、胆石、黄疸、リウマチに使用するそうです。

## ラベンダー (シソ科)

本園、カフェテリアから見えるエリアに、ラベンダーが咲いています。今、咲いているのは、花期が早いイタリアンまたはフレンチラベンダーと呼ばれる*Lavandula stoechas*で、その隣にるのがイングリッシュまたはコモンラベンダーと呼ばれる*L. angustifolia*で、5月末～7月に咲きます。どちらもヨーロッパの民間薬で使用されますが、香りがよいのは後者で、得られる精油が高級とされます。どちらも食用、薬用として使用され、葉をサラダや肉料理の付け合わせに、乾燥させた花を茶外茶またはサシェ(匂い袋)に入れて芳香剤として、精油を香水の原料やアロマセラピーに利用したりします。精油は、不安、不眠、うつに対する効果や、鎮痛、食欲増進、脱毛、防虫、殺菌などが期待されますが、皮膚への感作性があるので、皮膚に塗布するときのアレルギーには注意が必要です。